

北部太平洋大中型まき網地域漁業復興プロジェクト（銚子地区）

事業実施者：銚子市漁業協同組合

使用船舶名：

第二十一きんせい丸(86トン)
第八きんせい丸(91トン)
第十一きんせい丸(270トン)

支援期間：平成26年4月1日～平成29年3月31日

（大中型まき網漁業）

（取組の内容）

● 操業の省コスト化：

- ・代船網船の油圧操作機器の改良により乗組員を1名削減し人件費の縮減を図る。
- ・小口鮮魚パック用魚艙を設置することにより、氷の積込みトン数を12%縮減する。

● 省力化・労働環境：

- ・フィッシュポンプを導入し、小口鮮魚パック用魚艙への取込みの効率化を図る。
- ・新型網船の導入により、復原性が向上し、安全性・操船性が高まる。

● 漁獲物の付加価値向上：

- ・漁獲物を小分けして小口鮮魚パックに取込み、鮮魚保持や大量積込みによる魚体圧迫等の損傷を軽減し、付加価値を向上させ生鮮食用向けに上場し、魚価単価の向上を見込む。



小口鮮魚パックによる水揚

（事業の成果）

- 油圧操作機器の改造により1名削減し、**新型網船を24名で操業できる**ことを確認した。また、小口鮮魚パック用魚艙の設置により、氷代はほぼ計画どおり（計画の1%増）の縮減に繋がった。
- 復元性向上のため複板ブルワーク、網台嵩上げ等の船体改造を行ったことにより操業、航行時の安全性が向上した。
- 小口鮮魚パックの使用により、各魚種（サバ、マイワシ、マアジ、ウルメ）共に従来品（同日比）より高値で販売され、特に夏場のマアジは買受人の評価が高く従来品の2倍で販売された。これにより、**小口鮮魚パックによる付加価値向上により水揚金額が増額する可能性が示唆された。**
- **償却前利益は261百万円/年（3年平均）で震災前（101百万円/年）を上回り、収益性が向上した。今後の漁業経営の安定と次期代船の建造が期待される。**